
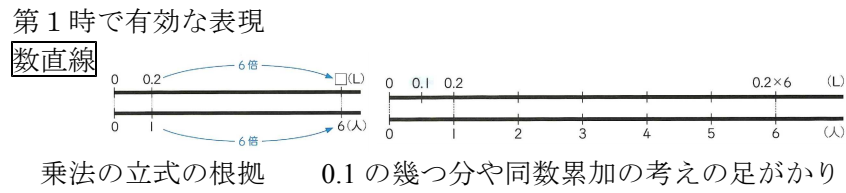

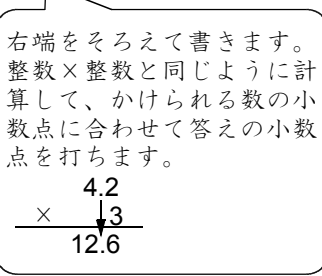



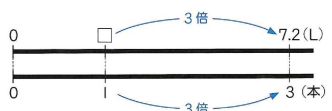
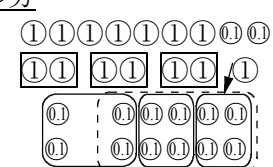






小数と整数のかけ算・わり算を考えよう (全14時間)

内容	時	本時のねらい	学 習 活 動	目指す子どもの姿	評価規準	留意点
小数×整数	1	<p>純小数×整数(1位数)の計算の仕方を考える活動を通して、被乗数を0.1の幾つ分と見れば整数×整数に帰着して考えられることに気付き単位として計算すればよいことを理解することができる。</p>	<p>[問題] デザートを1人分作るのに、0.2Lの牛にゆうが必要です。6人分作るには、全部で何Lの牛にゆうが必要でしょう。</p> <p>1. 整数の場面に置き換えて考える。 2. 図をもとに立式する。</p> <p><課題>0.2×6のような小数×整数の計算の仕方を考えよう。</p> <p>3. 計算の仕方を考え、交流する。 ・整数のかけ算と同じように0.2を6個分たせばいい。 ・0.2の6倍は、0.1の2×6個分。</p> <p>4. 考え方を関連付け、共通点を見付ける。 5. 計算の仕方をまとめる。</p> <p>【まとめ】0.1のいくつ分で考えると、かけ算九九を用いてかんたんに計算できる。</p>	 <p>0.2は0.1の2つ分です。 0.1が2×6=12なので、 0.1の12個分は1.2です。 だから0.2×6=1.2です。</p>	<p>小数×整数の計算に意欲をもつ。 (関心・意欲・態度)</p> <p>◎0.1のいくつ分で考える。 (数学的な考え方)</p>	<p>○小数×整数の計算を0.1のいくつ分という考え方で説明する活動を位置付ける。</p> <p>・テープ図と数直線を使って考える姿を価値付ける。</p>
	<p>第1時で有効な表現</p> <p>数直線</p>  <p>乗法の立式の根拠 0.1の幾つ分や同数累加の考えの足がかり</p> <p>言葉や式 0.1の幾つ分 0.2は0.1が2。 $2 \times 6 = 12$ 0.1が12で1.2 (計算原理)整数×整数に帰着</p>					
2		<p>帯小数×整数(1位数)の計算の仕方考える活動を通して、被乗数を0.1の幾つ分と見れば、整数×整数に帰着して考えられることに気付き、筆算で計算することができる。</p>	<p>[問題] 長いひもを切って、4.2mのひもを3本作ります。ひもは全部で何m必要でしょう。</p> <p>1. 図を基に立式する。</p> <p><課題>4.2×3のような小数×整数の計算の仕方考えよう。</p> <p>2. 計算の仕方考え、交流する。 ・0.1が42×3で126。だから12.6</p> <p>3. 帯小数×整数(1位数)筆算の仕方を知る。 ・右端をそろえて書き、整数×整数と同じように計算する。かけられる数に合わせて小数点をうつ。</p> <p>4. 小数×整数の筆算の仕方をまとめる。</p> <p>【まとめ】小数×整数の筆算は、整数×整数と同じように計算して、積の小数点は、かけられる数の小数点にそろえてうてばよい。</p>	 <p>4.2は0.1の42個分です。 0.1が4.2×3=126なので、 0.1の126個分は12.6です。 だから4.2×3=12.6です。</p> <p>右端をそろえて書きます。 整数×整数と同じように計算して、かけられる数の小数点に合わせて答えの小数点を打ちます。</p> 	<p>被乗数が小数の場合も、整数×整数の筆算の手順と同じと考える。 (数学的な考え方)</p> <p>◎帯小数×整数(1位数)の筆算の仕方を理解することができる。 (知識・理解)</p>	<p>○0.1のいくつ分の考え方をもとにして考えることを確認する場を位置付ける。</p> <p>・整数の筆算の仕方を想起する姿を価値付ける。</p>
	<p>第2時で有効な表現</p> <p>言葉や式 0.1の幾つ分 4.2は0.1が42 $42 \times 3 = 126$ 0.1が126で12.6 (計算原理)整数×整数に帰着 → 筆算の仕方につながる</p>					

内容	時	本時のねらい	学 習 活 動	目指す子どもの姿	評価規準	留意点
小数 × 整数	3	<p>小数×整数(2位数)を計算する活動を通して、0.1のいくつ分で考えることをもとにして、小数×整数(2位数)の計算原理を理解することができる。</p>	<p>【問題】 毎日 1.7 kmのジョギングをしている人がいます。28 日間では、何km走ることになるでしょう。</p> <p>1. 立式し、前時との違いを明らかにする。</p> <p>＜課題＞ 小数×2けたの整数の筆算の仕方を説明しよう。</p> <p>2. 考えを交流し、0.1を単位として、整数×整数の筆算に帰着して考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0.1が17×28で476。だから、47.6 <p>3. 小数点の位置を考える。</p> <p>4. 既習の筆算をもとに考える。</p> <p>【まとめ】 2けたの数をかける計算も、整数のかけ算と同じように計算して、積の小数点は、かけられる数の小数点にそろえてうてばよい。</p>	 <p>右端をそろえて書きます。整数×整数と同じように計算して、かけられる数の小数点に合わせて答えの小数点を打ちます。</p> $\begin{array}{r} 1.7 \\ \times 28 \\ \hline 136 \\ 34 \\ \hline 47.6 \end{array}$	<p>整数×整数の筆算の手順と同じと考える。</p> <p>(数学的な考え方)</p> <p>◎小数×2桁の整数の計算を筆算でできる。</p> <p>(技能)</p>	<p>○ 0.1のいくつ分の考え方により、整数×整数の計算問題として考えられることを確認する場を位置付ける。</p> <p>・ 小数点の位置を考える場を位置付ける。</p>
	<p>第3時で有効な表現</p> <p>言葉や式 0.1の幾つ分 (計算原理)整数×整数に帰着 → 筆算の仕方につながる</p>					
	4	<p>1/100の位まである小数×整数の計算の仕方を考える活動を通して、0.01のいくつ分で考えればよいことに気づき、筆算で計算することができる。</p>	<p>【問題】 2.65×7の計算のしかたを考えましょう。</p> <p>1. 前時までとの違いを明らかにする</p> <p>＜課題＞ 1/100の位まである小数×整数の計算の仕方を説明しよう。</p> <p>2. 計算の仕方を考え、交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0.1のいくつ分で考えたように、0.01のいくつ分で考えればよい。 <p>4. 既習の筆算をもとに考える。</p> <p>5. 筆算の仕方を説明する。</p> <p>【まとめ】 1/100の位まである小数×整数は、0.01のいくつ分で考えれば計算ができる。</p>	 <p>2.65は0.01の265個分です。0.01が265×7=1855なので、0.01の1855個分は18.55です。だから2.65×7=18.55です。</p> <p>右端をそろえて書きます。整数×整数と同じように計算して、かけられる数の小数点に合わせて答えの小数点を打ちます。</p> $\begin{array}{r} 2.65 \\ \times 7 \\ \hline 18.55 \end{array}$	<p>整数×整数の筆算の手順と同じと考える。</p> <p>(数学的な考え方)</p> <p>◎小数×整数の筆算が正しくできる。</p> <p>(技能)</p>	<p>○ 0.01のいくつ分の考え方により、整数×整数の計算問題として考えられることを確認する場を位置付ける。</p> <p>・ 1/1000の位まである小数の計算の仕方を考える活動を位置付ける。</p>
	<p>第4時で有効な表現</p> <p>言葉や式 0.01の幾つ分</p> <p>2.65は0.01が265 $265 \times 7 = 1855$</p> <p>0.01が1855で18.55</p> <p>(計算原理)整数×整数に帰着 → 筆算の仕方につながる</p>					
練習 1	5	<p>練習問題を通して、小数×整数の計算が正しくできる。</p> <p>【習熟】</p>	<p>【問題】 今まで学習してきたことをまとめましょう。</p> <p>1. 学習の進め方を確認する。</p> <p>＜課題＞ これまでの学習を使って、問題を考えよう。</p> <p>2. 積のどこに小数点をつけるかを考える。</p> <p>3. 小数のかけ算の計算練習をする。</p> <p>4. ある条件をもとに、新しい条件のときを考える。</p> <p>5. 長方形のまわりの長さを計算する</p> <p>6. 整数のかけ算をもとに、小数の入ったかけ算の積を考える。</p>		<p>小数のかけ算についての問題を解くことができる。</p> <p>(技能)</p>	

内容	時	本時のねらい	学 習 活 動	目指す子どもの姿	評価規準	留意点
小数 ÷ 整数	6	<p>帯小数÷整数(1位数)の計算の仕方を考える活動を通して、被除数を0.1の幾つ分と見れば整数÷整数に帰着して考えられることに気付き、筆算で計算することができる。</p>	<p>【問題】 7.2Lの牛にゆうを、3本の容器に等分します。1本分は何Lになるでしょう。</p> <p>1. 図を基に立式する。</p> <p><課題> 7.2÷3のような小数÷整数の計算の仕方を考えよう。</p> <p>2. 計算の仕方を考え、交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7.2は0.1が72。72÷3=24。0.1が24で2.4 ・7÷3=2あまり1。1と0.2で1.2は0.1が12。12÷3=4 ・0.1が4で0.4。2+0.4=2.4 <p>3. 考え方を関連付け、共通点を見付ける。</p> <p>4. 筆算の仕方をまとめる。</p> <p>5. 練習問題に取り組む。</p> <p>【まとめ】 小数÷整数の計算も0.1のいくつ分で見れば、整数÷整数と同じように位ごとに分けて計算することができる。</p>	 <p>7.2は0.1の72個分です。0.1が7.2÷3=24なので、0.1の24個分は2.4です。だから7.2÷3=2.4です。</p> <p><筆算></p> <ol style="list-style-type: none"> ①7÷3=2なので、一の位に2をたてます。(たてる) ②2×3=6(かける) ③7-6=1(ひく) ④わられる数に合わせて小数点をうちます。(うつ) ⑤2をおろします。(おろす) ⑥12÷3=4なので、1/10の位に4をたてます。(たてる) ⑦4×3=12(かける) ⑧12-12=0(ひく) <p>だから答えは2.4です</p> $\begin{array}{r} 2.4 \\ 3 \overline{) 7.2} \\ \underline{6} \\ 12 \\ \underline{12} \\ 0 \end{array}$	<p>◎帯小数÷整数(1位数)の計算は、小数を単位小数の幾つ分と見ること、整数÷整数に帰着して計算できると考える。</p> <p>(数学的な考え方)</p> <p>帯小数÷整数(1位数)の計算を筆算でできる。</p> <p>(技能)</p>	<p>○式と数図の関連を理解する学習活動を位置付け、さらに、筆算でひいておろしたときの12は0.1が12であることを考える学習活動を位置付ける。</p> <p>・活用問題において、整数部分をわった後に、0.1の幾つ分の見方が確認できるようにする。</p>
<p>第6時で有効な表現</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p>数直線</p>  </div> <div style="text-align: center;"> <p>除法の立式の根拠</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="width: 30%;"> <p>言葉や式</p> <p>0.1の幾つ分</p> <p>7.2は0.1が72。72÷3=24。</p> <p>0.1が24で2.4。</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>言葉や式</p> <p>位ごとに分ける</p> <p>7÷3=2あまり1。1と0.2で1.2。</p> <p>1.2は0.1が12。12÷3=4。</p> <p>0.1が4で0.4。2+0.4=2.4</p> </div> <div style="width: 30%;"> <p>数図</p> <p>0.1の幾つ分</p>  </div> </div> <p>(計算原理) 整数÷整数に帰着</p> <p>筆算の計算の仕方につながる</p>						
	7	<p>1/100の位までの小数÷整数の計算をする活動を通して、被除数を0.01の幾つ分と見れば整数÷整数に帰着できることに気付き、筆算で計算することができる。</p> <p>【習熟】</p>	<p>【問題】 7.62÷6の筆算のしかたを考えましょう。</p> <p>1. 前時との違いを明らかにする。</p> <p><課題> 1/100の位までの小数÷整数の計算の仕方を考えよう。</p> <p>2. 筆算の仕方を考える。</p> <p>3. ひいて→おろす数字が何のいくつ分なのか考える。</p> <p>4. 筆算の仕方をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0.1や0.01のいくつ分で考えれば、筆算もできる。 <p>5. 練習問題に取り組む。</p> <p>【まとめ】 1/100までの位の小数÷整数の計算は、上の位からわり進めればよい。</p>	 <p>7.62は0.01の762個分。0.1が762÷6=127なので、0.01の127個分は1.27です。だから7.62÷6=1.27です。</p> <p><筆算></p> <ol style="list-style-type: none"> ①7÷6=1なので、一の位に1をたてます。(たてる) ②1×6=6(かける) ③7-6=1(ひく) ④わられる数に合わせて小数点をうちます。(うつ) ⑤6をおろします。(おろす) ⑥16÷6=2なので、1/10の位に2をたてます。(たてる) ⑦2×6=12(かける) ⑧16-12=4(ひく) ⑨2をおろします。(おろす) ⑩42÷6=7なので、1/100の位に7をたてます。(たてる) ⑪7×6=42(かける) ⑫42-42=0(ひく) <p>だから答えは1.27です。</p>	<p>整数÷整数の筆算の手順と同じと考える。</p> <p>(数学的な考え方)</p> <p>◎小数÷整数の筆算が正しくできる。</p> <p>(技能)</p>	<p>・0.01のいくつ分の考え方から、整数の÷整数の計算ができることを確認する。</p> <p>○どの位から商がたつのか考える姿を価値付ける。</p>
<p>第7時で有効な表現</p> <p>言葉や式 0.01の幾つ分</p> <p>7.62は0.01が762。762÷6=127。</p> <p>0.01が127で1.27。</p> <p>(計算原理) 整数÷整数に帰着</p>						

内容	時	本時のねらい	学 習 活 動	目指す子どもの姿	評価規準	留意点
小数 ÷ 整数	8	<p>1/100 の位まで小数 ÷ 整数の計算をする活動を通して、一の位に仮商が立たないときは、わり進んで考えればよいことが分かり、正しく計算することができる。</p>	<p>[問題] 3.78 mのリボンを7等分しようと思います。1本分の長さは何mになるでしょう。</p> <p>1. 整数の場面に置き換えて考える。</p> <p>2. 図をもとに立式する。</p> <p><課題>一の位に商が立たないときの筆算の仕方を説明しよう。</p> <p>3. 筆算の仕方を考える。</p> <p>4. 一の位に0をたてる。</p> <p>5. 筆算の仕方をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ わられる数の小数点にそろえて、小数点をうてばいい。 <p>6. 練習問題に取り組む。</p> <p>【まとめ】 一の位に商が立たないときは、0をたててわり進めればよい。</p>	 <p><筆算> ① 3÷7はできないので、一の位に0をたてます。(たてる) ② わられる数に合わせて小数点をうちます。(うつ) ③ 7をおろします。(おろす) ④ 37÷7=5なので、1/10の位に5をたてます。(たてる) ⑤ 5×7=35(かける) ⑥ 37-35=2(ひく) ⑦ 8をおろします。(おろす) ⑧ 28÷7=4なので、1/100の位に4をたてます。(たてる) ⑨ 4×7=28(かける) ⑩ 28-28=0(ひく) だから答えは0.54です。</p>	<p>整数 ÷ 整数の筆算の手順と同じと考える。</p> <p>(数学的な考え方)</p> <p>◎ 小数 ÷ 整数の筆算が正しくできる。</p> <p>(技能)</p>	<p>○ 一の位に立つ数字を考える活動を位置付ける。</p> <p>・ 整数のわり算の筆算の仕方を想起させるような場を位置付ける。</p>
	<p>第9時で有効な表現</p> <p>言葉や式 0.1、0.01の幾つ分 (計算原理) 整数 ÷ 整数に帰着</p>					
あまりのあるわり算	9	<p>除数が2桁の整数の筆算を考える活動を通して、整数の計算と同じように計算すればよいことに気づき、正しく計算することができる。</p> <p>【習熟】</p>	<p>[問題] 52.9 ÷ 23の筆算のしかたを考えましょう。</p> <p>1. 前時までの違いを明らかにする</p> <p><課題>小数 ÷ 2けたの整数の筆算の仕方を説明しよう。</p> <p>2. 筆算の仕方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ わる数が2けたになっても0.1や0.01のいくつ分で考えればいい。 <p>4. 筆算の仕方をまとめる。</p> <p>5. 練習問題に取り組む。</p> <p>【まとめ】 小数 ÷ 2けたの整数の筆算は、0.1のいくつ分と考えて、整数の場合と同じように計算すればよい。</p>	 <p><筆算> ① 52÷23=2なので、一の位に2をたてます。(たてる) ② 2×23=46(かける) ③ 52-46=6(ひく) ④ わられる数に合わせて小数点をうちます。(うつ) ⑤ 9をおろします。(おろす) ⑥ 69÷23=3なので、1/10の位に3をたてます。(たてる) ⑦ 3×23=69(かける) ⑧ 69-69=0(ひく) だから答えは2.3です。</p>	<p>整数 ÷ 整数の筆算の手順と同じと考える。</p> <p>(数学的な考え方)</p> <p>◎ 小数 ÷ 整数の筆算が正しくできる。</p> <p>(技能)</p>	<p>○ 0.1のいくつ分で考える活動を位置付ける。</p> <p>・ 整数 ÷ 整数と比較する活動を位置付ける。</p>
	<p>第9時で有効な表現</p> <p>言葉や式 0.1、0.01の幾つ分 (計算原理) 整数 ÷ 整数に帰着</p>					
あまりのあるわり算	10	<p>小数 ÷ 整数の計算で、商を1/10の位まで求めた場合のあまりの大きさや小数 ÷ 整数の場合の商とあまりの確かめ方について考えることで整数の場合と同じであることを理解することができる。</p>	<p>[問題] 21.4 mのテープを4 mずつに分けます。4 mのテープは何本できて、何mあまるでしょう。</p> <p>1. あまりがでそうだと考える。</p> <p><課題>あまりの14の意味を調べて説明しよう。</p> <p>2. あまりの表し方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 5×4+1.4=21.4だから、あまりは1.4だ。 ・ あまりも0.1のいくつ分で考えればいい。 <p>3. あまりの小数点の位置についてまとめる。</p> <p>【まとめ】 あまりの小数点はわられる数の小数点にそろえてうてばよい。</p>	 <p>筆算の余りの14は、0.1が14個分ということだからあまりは1.4です。</p> <p><筆算> ① 21÷4=5なので、一の位に5をたてます。(たてる) ② 5×4=20(かける) ③ 21-20=1(ひく) ④ わられる数に合わせて小数点をうちます。(うつ) ⑤ 4をおろします。(おろす) ⑥ わられる数の小数点に合わせてあまりの小数点をうちます。 だから答えは4あまり1.4です。</p>	<p>あまりも0.1のいくつ分と考える。</p> <p>(数学的な考え方)</p> <p>◎ 小数 ÷ 整数の筆算で、あまりの表し方が分かる。</p> <p>(知識・理解)</p>	<p>○ 整数のわり算との比較を行い、0.1のいくつ分の考え方のよさを確認する場を位置付ける。</p> <p>・ 1/100までのあまりのある小数 ÷ 整数に取り組み、同じ考え方であることを理解する場を位置付ける。</p>
	<p>第10時で有効な表現</p> <p>言葉 0.1の幾つ分 0.01の幾つ分</p> <p>0.1や0.01をもとにして、整数 ÷ 整数の計算に帰着させたことから、あまりも0.1や0.01の幾つ分ととらえさせる。(計算原理)</p>					

内容	時	本時のねらい	学 習 活 動	目指す子どもの姿	評価規準	留意点
わり進みの計算	11	<p>小数÷整数や整数÷整数を計算する活動を通して、わり進んでいく場合の計算があることに気付き、筆算を利用して計算することができる。</p>	<p>【問題】5.4mのテープを4等分します。1つ分は何mになるでしょう。</p> <p>1. きちんとわけられないかと考える</p> <p>【課題】あまりの分け方を考えよう。</p> <p>2. 考えを交流し、単位を0.1、0.01に変えて考える。</p> <p>・5.4を5.40と見れば、わり進むことができる。</p> <p>3. わり進んでいく筆算の方法をまとめる</p> <p>4. 練習問題に取り組む。</p> <p>【まとめ】わり進んでいくには、0.01のいくつ分、0.001のいくつ分、・・・と見方を変えて考えるとよい。</p>	 <p>＜筆算＞</p> <p>① $5 \div 4 = 1$なので、一の位に1をたてます。(たてる)</p> <p>② $1 \times 4 = 4$(かける)</p> <p>③ $5 - 4 = 1$(ひく)</p> <p>④ わられる数に合わせて小数点をうちます。(うつ)</p> <p>⑤ 4をおろします。(おろす)</p> <p>⑥ $14 \div 4 = 3$なので、1/10の位に3をたてます。(たてる)</p> <p>⑦ $3 \times 4 = 12$(かける)</p> <p>⑧ $14 - 12 = 2$(ひく)</p> <p>⑨ 1/100の位に0があるとみて0をおろします。(おろす)</p> <p>⑩ $20 \div 4 = 5$なので、1/100の位に5をたてます。</p> <p>⑪ $5 \times 4 = 20$(かける)</p> <p>⑫ $20 - 20 = 0$(ひく)</p> <p>だから答えは1.35です。</p>	<p>単位を0.1から0.01に変えて考える。</p> <p>(数学的な考え方)</p> <p>◎わり進みの計算ができる。</p> <p>(技能)</p>	<p>○あまりの数をどうすればよいか考える場を位置付ける。</p> <p>○わる数と商をかけることで、答えの確かめをする姿を価値付ける。</p>
		<p>第11時で有効な表現</p> <p>言葉 0.1の幾つ分 0.01の幾つ分</p> <p>わり進むときに0をつけるわけを、単位小数の見方を変えたことと関連付けて考える。(計算原理)</p>				
	12	<p>あまりを求めずに商を概数で表す問題を解く活動を通して、商を概数で表すには1つ下の位を四捨五入すればよいことに気付き、わりきれない商を四捨五入して概数で表すことができる。</p>	<p>【問題】$2 \div 8$の筆算のしかたを説明しましょう。</p> <p>1. 既習をもとに解決の見通しをもつ</p> <p>【課題】わられる数がわる数より小さい整数÷整数の筆算のしかたを考えよう。</p> <p>2. 0.1や0.01のいくつ分で考えたことを交流する。</p> <p>・2は0.1の20個分。0.4を0.01の40個分と考えると、今までと同じように筆算ができる。</p> <p>3. 類題に取り組み習熟を図る。</p> <p>4. 商を四捨五入して1/10の位まで求める計算の仕方を考える。</p> <p>【問題2】10kgのお米を17のグループで等分します。1グループ分は約何kgになるでしょう。商を四捨五入して、1/10の位まで求めましょう。</p> <p>5. 計算の仕方を交流する。</p> <p>・1/10の位までの概数にするには、1/100の位まで計算して、1/100の位の商を四捨五入すればいい。</p> <p>【まとめ】1/10の位までのがい数を求めるには、1/100の位まで計算して四捨五入すればよい。</p>	 <p>① $2 \div 8$はできないので、一の位に0をたてます。(たてる)</p> <p>② 2を2.0とみて、小数点を合わせてうちます。(うつ)</p> <p>③ 0をおろします。(おろす)</p> <p>④ $20 \div 8 = 2$なので・・・</p> <p>(割り切れるまで順にわり進めていく姿)</p>  <p>四捨五入して1/10の位までの数にするので、1/100の位まで求めます。</p> <p>(どの位の数まで求めればよいかを理解して計算を進める姿)</p>	<p>答えがわりきれないときは、答えを概数で表すと考える。</p> <p>(数学的な考え方)</p> <p>わりきれない商を概数で表す方法が分かる。</p> <p>(知識・理解)</p>	<p>○四捨五入により、1/10の位まで求めるには、どの位まで求める必要があるかを考える場を位置付ける。</p> <p>・1/100の位までや、1/1000の位まで求める場合について考える場を位置付ける。</p>
		<p>第12時で有効な表現</p> <p>言葉 0.1の幾つ分 0.01の幾つ分</p> <p>一つ下の位の数の幾つ分と見ることで、わり進むことができる。(計算原理)</p>				

内容	時	本時のねらい	学 習 活 動	目指す子どもの姿	評価規準	留意点
小数と倍	13	テープの長さを比べる活動を通して、何倍かを表すときにも、小数を用いることがあることを理解することができる。	<p>[問題] 赤、緑、青のテープの長さは、それぞれ黄色のテープの長さの何倍でしょう。</p> <p>1. 整数倍の場合について考える。</p> <p><課題>数直線を使って、何倍になるか考えよう。</p> <p>2. 考えを交流し、小数倍が存在することを確認する。</p> <p>3. 数直線で小数倍とテープの長さとの関係を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 何倍かを表すとき、小数でも表せるんだな。 <p>4. 類題を解く。</p> <p>【まとめ】 1.5倍や0.5倍のように、何倍かを表すときにも小数を用いることがある。</p>	<p>黄色は赤より長いから、答えは1より大きいな。</p> <p>青は黄色より短いから、1より小さい(0.いくつ倍)になるな。 (数直線をもとに、見通しをもつ姿。また、小数倍があることを理解している姿。)</p>	<p>整数の場面をもとに類推して考える。 (数学的な考え方)</p> <p>◎何倍かを表すときにも小数が使えることが分かる。 (知識・理解)</p>	<p>○身のまわりにある現象について、小数倍で表す活動を位置付ける。</p> <p>・テープ図や数直線をもとに考える活動を位置付ける。</p>
		<p>第13時で有効な表現</p> <p>数直線</p> <p>2量の関係(大小)を視覚的にとらえやすくなる。 基準量(1と見る量)や比較量をはっきりさせることができる。</p>				
きほんのたしかめ	14	練習問題を行う活動を通して、小数÷整数の計算についての理解を深めることができる。	<p>[問題] 小数のわり算の問題に取り組もう。</p> <p>1. 学習の進め方を確認する。</p> <p><課題>これまでの学習を使って、問題を考えよう。</p> <p>2. 小数のわり算の計算練習をする。</p> <p>3. あまりのある小数のわり算の計算練習をする。</p> <p>4. 文章を読み、小数のわり算を利用して解くことを考える。</p> <p>5. 整数のわり算をもとに、小数の入ったわり算の商を考える。</p> <p>【習熟】</p>		<p>小数のわり算についての問題を解くことができる。 (技能)</p>	